

## 第4回 就職氷河期世代支援に係る全国プラットフォーム 配布資料

資料9

## アウトリーチについて

アウトリーチには当事者にとり、時に恐怖を感じ、より追い詰められる可能性のある支援であることから、「ひきこもり状態から引き出すため」に行うのではなく、あくまで「寄り添う人」になることを目的に行ってほしい。

## チームに当事者を

ひきこもり地域支援センターでのチーム結成、ひきこもり支援ステーション事業創設においては、ひきこもり当事者をそのメンバーに必ず入れてほしい。

## 広域連携について

ひきこもり当事者や家族は、地元の人に知られてしまう恐れから、在住地の相談窓口には行かれないという人がとても多い。広域での相談、居場所への参加が可能になるように近隣の区市町村で連携してほしい。

## オンラインでの支援について

オンラインでの支援を構築する際、事前に当事者にヒアリングを行ってほしい。 望まない、使えないプログラムでは意味がない。また、パソコンやスマートフォン持ってない人へのサポートについても考慮してほしい。

※次ページ参照

# オンラインでの交流イベント開催

ひきこもりUX会議

2022年  
3/12 土  
13:00-17:00

ひきこもりUX ONLINE

どこかへ飛び立とうとする前には、まずはラウンジでひと息つきましょ。今回は、オンラインで待ち合わせ。

参加費無料・要事前申込

- 全国から約400名が参加
- 当事者、家族、支援者がそれぞれの立場で、また一緒にオンラインで対話交流
- 3名のひきこもり当事者、1名の家族のインタビューを配信 (UX Storis)

## <参加者の声>

- ・新たな繋がりができて良かった。
- ・色んなひきこもり当事者の意見が聞けて良かった。
- ・コロナ禍でのオンラインを今後も開催していただくと大変有難いです
- ・全国のみなさんとお話し合いができました。性別も年齢も立場もさまざまで、多様性を感じました。

2022  
3/12 Sat.  
ひきこもりUX オンライン  
タイムテーブル & コンテンツ

各コンテンツや交流会の  
上記マークよりご視聴・  
ご参加いただけます。

UXラウンジONLINE  
SPECIAL CONTENTS  
UX Stories  
ストーリーズ

YouTube で配信  
全編字幕つき

視聴可能期間  
3/11 金 17:00  
3/13 日 23:59

※UXラウンジにお申し込みの方は  
上記の視聴可能期間内にお好きな  
タイミングでご視聴いただけます。

ひきこもり等の生きづらさを抱える当事者や、ご家族へのインタビュー「UXストーリー」

13:00-13:20 オープニングトークセッション **オンライン**  
YouTubeライブ ひきこもりUXラウンジへようこそ

Zoomによる対話交流会の各グループへ

13:30-14:45 **当事者会** [定員20名]  
対象 ひきこもりや生きづらさを抱えている方で、テーマに興味のある方  
テーマ：困りごと  
内容 ひきこもり生活は困難の連続。よくある困りごと5つの中から1つ選んで語り合います。皆さんからのご提案も歓迎です。

13:30-14:45 **当事者会** [定員10名]  
対象 ひきこもりの当事者、経験者  
内容 みんなでお話をして、一緒に時間を過ごせる場です。話したいテーマを導き、色々なテーマに沿って一人ずつ順番に話します。話し手はパスが可能です。自由度が高いです。途中参加・聞くだけ・チャットのみ参加はNGです。

13:40-15:10 **家族会** [定員15名]  
対象 不登校・ひきこもり状態のご家族がいる方  
内容 集まった人達で自由にお話する場。軽い自己紹介のあと、日ごろ他の人には言えないような思いを共有する場を作ります。カメラはONでご参加ください。

13:30-14:45 **つながる待合室①** [定員300名]  
対象 ひきこもり状態のご家族がいる方、支援に携わっている方、「ひきこもり」に関心がある方(当事者の方もご参加いただけます)  
内容 前半は支援者、家族、当事者のそれぞれの立場に分かれて、後半はランダムで様々な立場の方と、5人1グループで自由に対話・交流します。

※各グループに進行役はいません。

14:00 Break (ブレイク) 14:30 step (ステップ)

※特別な記載がない限り、聞くだけ・チャットのみ・カメラOFFでの参加も可能です。  
※各会の定員に達し次第、入室を制限する場合があります。

マイクON 5名  
チャットのみ 5名  
聞くだけ 10名

運営協力 礼儀ひきこもり女子会

15:15-16:30 **当事者会** [定員20名]  
対象 ひきこもり等生きづらさを抱えている方  
内容 『たくなるがたり』という座談会を開催します。食へ、行き、遊び、観、聞きなど、お互いの好きなことを皆で共有して、○○たくなる気持ちを高め合います。

15:15-16:30 **UX女子会** [定員30名]  
対象 ひきこもり・生きづらさを抱える当事者・経験者で女性自認の方  
内容 前半・後半ともに話したいテーマに分かれて交流します。  
<テーマ>  
前半：①家族関係 ②働く ③メンタルヘルス ④フリーワーク  
後半：①人間関係 ②夢ややりたいこと ③主婦 ④フリーワーク

15:15-16:30 **つながる待合室②** [定員300名]  
対象 前半①と同じ対象・内容で実施します

15:30-16:30 **女子会** [定員20名]  
対象 ひきこもり状態にある方や、元ひきこもり、対人関係の難しさなど、様々な生きづらさを感じている女性自認の方  
内容 Googleマップのストーリーレビューを活用したオンライン観光と、軽めのテーマトークでゆったりゆったり交流しましょう。

16:00 運営協力 さなぎざと

16:30 YouTubeライブ配信でのクロージングへ

16:40-17:00 クロージングトークセッション **いかがでしたか?**  
YouTubeライブ **How was Ur eXperience?**

17:00

とやまさん [仮名] (30代/東京)  
中学生で約2年半不登校。社会人になってからも断続的ひきこもり状態に。自分と合った働き方や生き方を探している。

割田 大悟さん (30代/神奈川)  
大学時代に人間関係の疲れや、うつ・無気力状態に陥り外出できなくなる。2015年、ひきこもり当事者グループ「ひき桜」を立ち上げ。

橋本 太さん (50代/静岡)  
ひきこもり期間30年。10年間支援を受け、就労する。当事者仲間情報提供をする手作りの新聞を発行している。

後藤 誠子さん (50代/岩手)  
次男の不登校・ひきこもりを経験。「笑いのたねプロジェクト」を立ち上げ、当事者と支援者をつなぐ場を創出する。

2022 ©Hikikomori UX Kaigi

## 短時間雇用について

ひきこもりや、これまでに働く場で傷つき、疲弊してきた人にとり、いきなり一日8時間、週5日で働くことはあまりにハードルが高い。

まずは、一日2～3時間、週に2日など、短時間で働くことができれば、就労に至る人はかなりの数に上ると想定される。

また、短時間雇用の収入でも暮らしていける仕組みがあれば、親亡き後もなんとかかなるかもしれないと思え、その安心感からさらに就労に意欲的になることも考えられる。

東久留米市商工会の取り組みは、地元企業、市の福祉総務課、民間団体とも連携し、当事者の雇用を生み、企業の人材不足解消にも役立っている。

<2022/04/21 朝日新聞夕刊>

現場へ!

働くハードル下げて一歩

ひきこもりと支援④

これまで、ひきこもりの人たち、それぞれの事情が十分に分からないまま、就労一辺倒で進める支援は実を結ばなかった。ただ、ひきこもり当事者や経験者の生の声を集めた「ひきこもり白書2021」(ひきこもりXX会議)では、現在就労していないひきこもり状態の人の6割は「働きたい」と答えていた。白書は「働きたいのに、はたして自分自身で働けるか」と問題提起する。

東久留米市商工会(東京都東久留米市)では、ひきこもり経験者の声を聞きながら、当事者が参加しやすい就労に挑戦している。さん(仮名)に会うため、東久留米市の機械メーカー「ハイメックス」の工場を訪ねた。出迎えてくれた前田さんは選考を待つ間、ついでに機械部品の不要な突起物を取り除く「バリ取り」の仕事をしている。前田さんは「焦らないで働く環境が自分に合っている。企業に説明に回った東久留米市商工会の正田副会長さん

ひきこもり当事者ら1686人へのアンケート結果をまとめた「ひきこもり白書2021」

東久留米市商工会の取り組みは、地元企業、市の福祉総務課、民間団体とも連携し、当事者の雇用を生み、企業の人材不足解消にも役立っている。

さん(仮名)は「急がば回れ」が本当の就労支援になると考え、関連書籍を読み、支援団体から話を聞くことを重ねた。協力企業のハイメックスの石橋副社長・総務部長らと当事者の講演会に足を運んだ。

ハイメックスは商工会の紹介でひきこもり経験者を受け入れる。仕事は「一方的に決まらず、前田さんの場合は本人が過剰な精神障害を抱える人の支援団体「ポリフォニー」が仕事を担う。これなのである」(こちらは本人の特性に合わない)と現場責任者に相談しながら決めた。石橋さんは「いきなり労働ではなく、企業での就業体験という手順を踏みました。当事者も企業もやってみて話してわかる。ここから先あるでしょうから」と説明する。前田さんは「この作業に適性を感ずる。3カ月の実習を経て昨年12月からハイメックスと業務委託契約を結び、働き回っている。『働くこと』のハードルを下げ、柔軟な働き方であれば歩み出せるかもしれない」と前田さんはそう感じている。東久留米市商工会のひきこもり支援の協力企業は、30社ほどまで増えた。社会の側も変わり始めている。(村井心)